

資格等について

1 アスレティックトレーナー課程

◇アスレティックトレーナーとは

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー（以下、公認ATという。）は、日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者の一つ（メディカル・コンディショニング資格）であり、唯一のアスレティックトレーナー資格として公認されたものです。

本学は、日本スポーツ協会の承認校として平成23年4月から、医療科学部東京柔道整復学科及び令和元年4月から医療科学部柔道整復学科と東京理学療法学科、令和7年4月から医療科学部理学療法学科と作業療法学科にアスレティックトレーナー課程（以下、AT課程という。）を開設しました。

AT課程の目的は、機能解剖や運動学に関する専門的な知識を有し、スポーツ活動現場において、競技者の外傷・障害予防、救急対応、コンディショニングにあたるとともに、スポーツ外傷・障害を受けた競技者の競技復帰までのリコンディショニングができる技能を持つ指導者を養成することです。

公認ATの役割は、スポーツドクター及びコーチと緊密な協力のもとに、競技者の健康管理、スポーツ活動中の外傷・障害予防、救急対応、リコンディショニング及び体カトレニング、コンディショニング等を統合的な視点を持ってサポートすることにあります。

詳しくは、AT課程専門科目「JSPO-ATの役割」の授業で説明します。

◇履修登録及びAT課程履修費

AT課程の履修を希望する作業療法学科の1年次生は、AT課程ガイダンスに必ず出席してください。このガイダンスに出席しない者は、履修登録を受け付けません。

AT課程履修費として40,000円が必要となります。

また、別途、現場実習費を徴収する場合があります。徴収したAT課程履修費、現場実習費は、いかなる理由があっても返還しません。

◇AT課程の現場実習

現場実習は、「日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会講習・試験免除適応コースアスレティックトレーナーコース現場実習計画書」に基づき実施されます。

現場実習についての説明は、AT課程ガイダンスで行います。

◇公認ATの資格取得及び履修科目（帝京科学大学履修規則別記5より抜粋）

次の授業科目を履修し、必要な単位数を取得すれば、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目講習・試験免除適応コース検定試験の受験資格を得ることができます。

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目講習・試験免除適応コース検定試験（実技試験、理論試験）に合格し、日本スポーツ協会に登録手続をすることにより、「公認AT」として認定されます。

(アスレティックトレーナー養成のための課程の履修)

履修規則第24条に基づく、アスレティックトレーナー課程の履修は次表のとおりとする。
以下の科目は、すべて修得すること。

作業療法学科

| 日本スポーツ協会指定科目 | | 本学開講科目名 | | 履修年次 |
|--------------|--|--|------------------|------------------------------|
| 科目内容 | | 授業科目 | 単位 | |
| 共通科目 | コーチングを理解しよう 1.コーチングとは 2.コーチに求められる役割 3.コーチに求められる知識とスキル 4.対他者力を磨こう 5.対自己力を磨こう 6.スポーツの意義と価値 7.スポーツの価値を守るスポーツ権 8.スポーツの自治ーガバナンスとコンプライアンスー 9.暴力・ハラスメントの根絶 10.スポーツのインテグリティ 11.スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 12.スポーツ仲裁 13.スポーツ倫理 14.時代をリードするコーチング | コーチング論Ⅰ 体育・スポーツ経営学 | 2 2 | 1年前期 1年後期 |
| | グッドコーチに求められる医・科学的知識 1.スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系 2.体力のトレーニング 3.スキルトレーニング 4.心のトレーニング 5.スポーツと栄養 6.スポーツに関連する医学的知識 7.アンチ・ドーピング | スポーツ心理学基礎 スポーツと食事 スポーツ障害と臨床医学 スポーツトレーナー入門 | 1 1 1 2 | 2年前期 2年前期 2年後期 1年後期 |
| | 現場・環境に応じたコーチング 1.コーチング環境の特徴 2.ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング 3.スポーツ組織のマネジメント 4.障がい者とスポーツ | コーチング論Ⅱ | 2 | 2年後期 |
| 専門科目 | JSPO-AT の役割 1) 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)とは 2) JSPO-AT のコンピテンシーに応じた業務と運営 3) JSPO-AT の活動と倫理および運営管理 4) JSPO-AT の安全と健康管理、セルフマネージメント 5) スポーツ医・科学チームとスタッフ 6) エビデンスに基づいた運営 (EBP) 7) 関係者・対象者とのコミュニケーション | JSPO-AT の役割 | 2 | 1年前期 |
| | 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防 1) スポーツ現場における安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の概念 2) スポーツ現場におけるスポーツ外傷・障害・事故・疾病の実態 3) 各種要因が安全・健康管理に及ぼす影響 4) 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防における JSPO-AT の役割 5) 健康管理 6) スポーツ外傷・障害の予防 7) 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防のための各種評価と情報の活用 8) 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼす各種要因への対応 | AT 総合演習Ⅰ AT 総合演習Ⅱ | 2 4 | 2年前期 3年前期 |

| | | | | |
|-------------------------------------|---|-----------------------------|-------------|----------------------|
| 専 門 科 目 | コンディショニング 1) JSPO-ATの役割としてのコンディショニング 2) コンディショニングのプログラムデザイン 3) 競技特性の分析 4) トレーニング各論 5) コンディショニングに関するそのほかの情報 | コンディショニングⅠ コンディショニングⅡ | 4 2 | 1年後期 3年前期 |
| | リコンディショニング 1) リコンディショニング総論 2) リコンディショニングで用いる代表的な手法 3) リコンディショニングにおける評価とプログラミング 4) リコンディショニングに必要な組織修復、治癒過程の知識 5) 機能的、身体的な状態に応じたリコンディショニング 6) 部位ごとの状態に応じたリコンディショニング 7) スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング | リコンディショニングⅠ リコンディショニングⅡ | 4 2 | 2年後期 3年前期 |
| | 救急対応 1) スポーツ現場と救急対応 2) 救急対応の考え方 3) スポーツ現場における救急体制構築の留意点と計画 4) スポーツ現場での外傷、障害の評価とその手順 5) 外傷時の救急対応 6) 内科的疾患に対する救急対応 7) 各競技における救急体制の実践 | AT 救急対応 AT 救急対応(実践) | 2 2 | 2年後期 3年前期 |
| | 検査・測定と評価 1) JSPO-ATの行う検査・測定・評価とは 2) JSPO-ATの行う検査・測定・評価の実際 | 検査・測定と評価(実習含む) | 2 | 2年後期 |
| | 人体の解剖と機能 1) 上肢・体幹 2) 骨盤・下肢 | 人体の構造と機能Ⅰ 運動学 運動学実習 | 2 2 1 | 1年前期 1年後期 2年前期 |
| | スポーツ科学 1) 運動生理学 2) バイオメカニクス 3) 体力・運動能力向上と外傷・障害予防に必要なスポーツ科学の応用知識 4) スポーツ科学の基礎知識の体力・運動能力向上と外傷・障害への活用 | スポーツ科学 バイオメカニクス 運動生理学 | 2 2 2 | 1年前期 2年後期 2年前期 |
| | スポーツ医学 1) 上肢・体幹・下肢の代表的なスポーツ外傷・障害 2) スポーツ現場で起こりうる留意すべき重篤な外傷・障害・疾病 3) スポーツ活動と関連する代表的な循環器疾患、呼吸器疾患、代謝性疾患、血液疾患等 4) スポーツ現場で起こりうる眼科、耳鼻科、歯科、皮膚科領域の代表的な外傷および疾病 5) 対象別(女性、高齢者、発育期、パラアスリート)によるスポーツ外傷・障害の特徴及び医学的留意事項 | スポーツ医学概論 健康管理とスポーツ医学 | 2 2 | 2年後期 3年前期 |
| | 見学実習 | アスレティックトレーナー見学実習 | 1 | 1年前期 |
| | スポーツ現場実習 (ストレッチング、テーピング、応急措置等) | アスレティックトレーナー現場実習Ⅰ | 1 | 1年後期 |
| | 検査・測定と評価実習、 アスレティックリハビリテーションプログラム作成実習 | アスレティックトレーナー現場実習Ⅱ | 1 | 2年前期 |
| アスレティックリハビリテーション実習 (プログラム作成、実施等) | アスレティックトレーナー現場実習Ⅲ | 1 | 2年後期 | |
| 総合実習 | アスレティックトレーナー総合実習 | 2 | 3年後期 | |